

市

商店街の活気を取り戻すため市内で市が開かれ、買い物をしながら出店者との会話をを楽しむ人でにぎわいました。



⑤恒例の互市は中止となりましたが、有志の皆さんで鹿島台復興互市を開催⑥リオーネふるかわで開催された震災復興市⑦岩山出互市



支援

本市の姉妹都市や本市と交流がある都市などさまざまな地域から、物資や職員派遣などで協力していただき、震災で揺れるまちを支えていただきました。

①コウノトリが縁で交流がある兵庫県豊岡市は、がれきの撤去を手伝ってくれました②姉妹都市の北海道当別町から応援に駆けつけた保健師による避難所の巡回。当別町では、地震発生直後から、大崎市の情報を町のウェブサイトを通して全国に発信していただきました③④救援物資を直接届けてくれた姉妹都市の愛媛県宇和島市と東京都台東区

また、姉妹都市をはじめ、全国の自治体からの人的・物資の支援や義援金のご厚意をいただきました。さらに、国や県から道路や堤防の応急復旧、JRやバス会社から交通復旧に渾身のご支援をいただき、たいへんありがとうございました。こうした皆さまのご支援にこたえるためにも、一日も早くこの震災から立ち直ることが私達の使命であると考えております。

避難所開設、支援物資の提供や沿岸地域の避難者の集団受け入れから、災害対策本部の中に震災復興本部を立ち上げ、震災復興局長をトップに震災復興推進室を設置する体制をスタートいたしました。今後、速やかに災害廃棄物の処理、民間アパート借上げ方式の仮設住宅の提供、住居の復旧や生活再建支援、公共施設の復旧、仮設校舎建設、道路や堤防の復旧に取り組んでまいります。さらに、市民の皆さまに希望を持って総力を挙げて復興に取り組んでいただくため「大崎市復興計画」を策定し、震災からの復旧に留まらず、震災からの復旧に強いまちづくり、沿岸地域への広域支援と共生、新しい東北を牽引する宝の都(くに)・大崎の創生に結びつけていきたいと考えております。

東日本大震災から五十日が経過しました。三月十一日に三陸沖で発生した東北地方太平洋沖地震は、マグニチュード九・〇という我が国の地震観測史上最大のものでした。本市でも震度六強の激しい揺れに見舞われました。沿岸部を襲った大津波、福島原発の事故、風評被害、いまだ収まらない激しい余震により、不安な日々が続いております。

改めてお亡くなりになられた方に衷心より哀悼の意を表しご冥福を申しあげますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申しあげます。未曾有の大災害にあたり、震災直後から市の災害対策本部のもとに結集いただいた自衛隊、警察、消防署、消防団、行政区長や自主防災組織、社会福祉協議会や民生委員、災害協定を結んだ団体や、ボランティアの方々には昼夜を分かたず懸命の支援活動をいた



震災を乗り越え 復興へ歩み出そう!

大崎市災害対策本部長 大崎市長 伊藤 康志